

2017年11月9日

報道関係各位

## 11月14日は世界糖尿病デー

### ブルーライトアップや啓発イベント 全国200ヶ所（過去最多）で実施

世界糖尿病デー実行委員会（一般社団法人日本糖尿病学会・公益社団法人日本糖尿病協会）は、11月14日の世界糖尿病デーに国内の著名な建造物をブルーにライトアップし、糖尿病の正しい知識を啓発するイベントを全国で実施します。

2016年（平成28年）国民健康・栄養調査によると、糖尿病患者数は推計で初めて1,000万人（前回調査比+50万人）を突破し、予備群を含めると2,000万人（※1）。成人の4人に1人が糖尿病、という状況です。超高齢社会の到来により、今後、高齢者を中心に患者数は伸び続けることが予測されることから、社会保障の観点からも糖尿病抑制の対策は急務となっています。

世界的にも糖尿病患者数の増加傾向は続いています。2015年の世界の患者数は4億1,500万人、特に中国・インドを含むアジア地域での患者数の増加が著しく、この地域は2040年に3億5,500万人に達すると予測され、全世界の糖尿病患者の半数以上がアジアに集中することになります（※2）。

2006年12月、糖尿病の脅威に対し全世界を挙げて立ち向かう決議が国連総会で採択され（※3）、「Unite for Diabetes～糖尿病に対して団結しよう」をスローガンに、11月14日に世界各地で啓発活動が展開されています。日本糖尿病協会と日本糖尿病学会もこの活動を日本で広げるべく、毎年この時期に、糖尿病の啓発行事を集中的に実施してきました。

今年は、過去最多となる200か所の有名建造物をブルーライトアップし、市民に糖尿病予防の重要性をアピールします。同時に、11月13日(月)から始まる「全国糖尿病週間」（共催：日本糖尿病協会・日本糖尿病学会）の1週間を通して、各地で無料の血糖測定や健康相談、ウォーキングや講演会なども同時開催して、糖尿病患者さんや予備群、一般市民に向けて糖尿病の正しい知識を提供します。

（※1）平成28年国民健康・栄養調査／厚生労働省

（※2）IDF DIABETES ATLAS 7<sup>th</sup> Edition 2015／International Diabetes Federation

（※3）2006年12月20日 UN Resolution 61/225／United Nation

## ■ 世界糖尿病データ関連データ ■

(出典:IDF Diabetes Atlas 7th Edition 2015)

糖尿病のデータ(20-79 歳)	2015 年	2040 年
世界の有病率	8.8%	10.4%
糖尿病患者数	4 億 1500 万人	6 億 4200 万人
糖尿病での死亡数	500 万人	
<b>耐糖能異常 (予備群)</b>		
人口比	6.7%	7.8%
人数	3 億 1800 万人	4 億 8100 万人
<b>妊娠時の高血糖状態(20-49 歳)</b>		
割合	16.2%	
影響を受ける出生数	2090 万人(新生児 7 人に 1 人)	
<b>小児 1 型糖尿病(0-14 歳)</b>		
1 型糖尿病患者数	542,000 人	
毎年新たに診断される患者数	86,000 人	
<b>糖尿病関連の医療費(20-79 歳)</b>	6730 億 USD/ 約 70 兆円	8020 億 USD/ 約 84 兆円

### <成人(20-79 歳)糖尿病患者数 上位 5 カ国>

順位	国	2015 年患者数	順位	国	2040 年患者数
1	中国	1 億 960 万人	1	中国	1 億 5070 万人
2	インド	6920 万人	2	インド	1 億 2350 万人
3	アメリカ	2930 万人	3	アメリカ	3510 万人
4	ブラジル	1430 万人	4	ブラジル	2320 万人
5	ロシア連邦	1210 万人	5	メキシコ	2060 万人

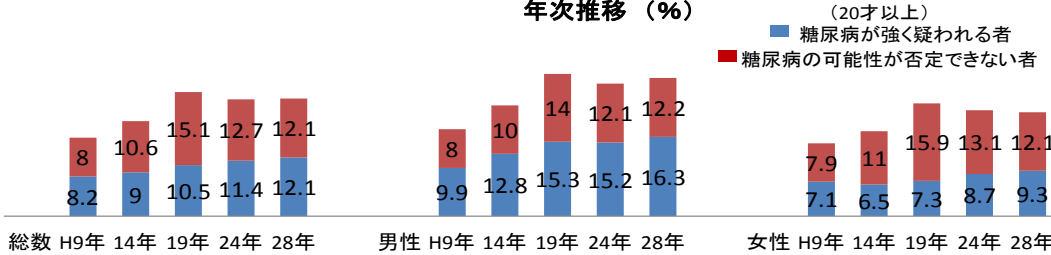
## 世界の糖尿病人口 (2015年/2040年)



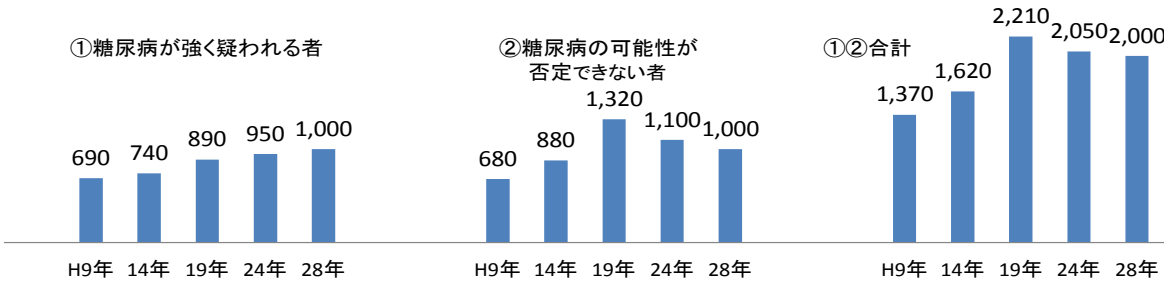
# 日本の糖尿病の現況

(厚生労働省:平成28年国民健康・栄養調査より)

「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性が否定できない者」の割合の年次推移 (%)



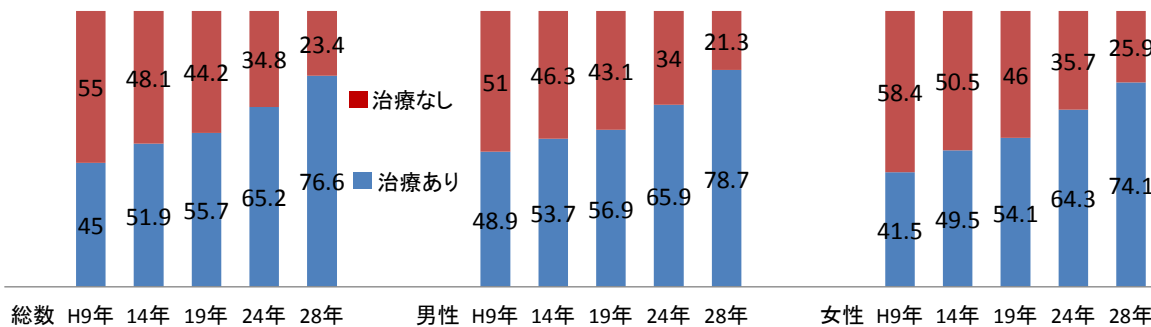
「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性が否定できない者」の推計人数の年次推移(万人)



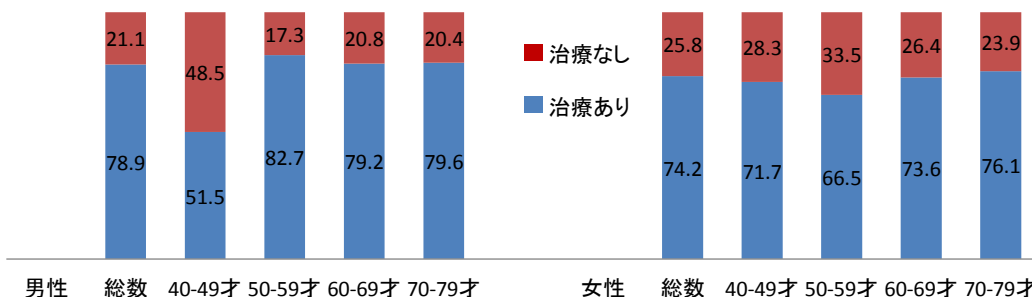
# 日本の糖尿病の現況

(厚生労働省:平成28年国民健康・栄養調査より)

「糖尿病が強く疑われる者」における治療状況の年次推移 (%)



「糖尿病が強く疑われる者」における治療の状況 (%) (40才以上、性・年齢階級別)



## 関連ウェブサイト■

IDF	<a href="http://www.idf.org/">http://www.idf.org/</a>
IDF Diabetes Atlas	<a href="http://www.diabetesatlas.org">http://www.diabetesatlas.org</a>
世界糖尿病デー実行委員会	<a href="http://www.wddj.or.jp/">http://www.wddj.or.jp/</a>
日本糖尿病協会	<a href="http://www.nittokyo.or.jp/">http://www.nittokyo.or.jp/</a>
日本糖尿病学会	<a href="http://www.jds.or.jp/">http://www.jds.or.jp/</a>
日本医師会	<a href="http://www.med.or.jp/">http://www.med.or.jp/</a>
日本歯科医師会	<a href="http://www.jda.or.jp/">http://www.jda.or.jp/</a>
日本糖尿病対策推進会議	<a href="http://www.med.or.jp/tounyoubyou/index.html">http://www.med.or.jp/tounyoubyou/index.html</a>
厚生労働省 国民健康・栄養調査	<a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html</a>

### ★世界糖尿病デー（11月14日）の由来

1921年に糖尿病治療に必要なインスリンを発見したフレデリック・バンティング博士（カナダ／1891-1941）の誕生日。シンボルカラーのブルーは、国連色とどこまでも広がる青空の色から採用されました。

### ★世界糖尿病デー実行委員会とは

2006年の国連決議を受けて、日本国内の糖尿病啓発を促進するために日本糖尿病協会と日本糖尿病学会により設立された任意団体です。世界糖尿病デーに関する国内の啓発活動を統括し、各地のブルーライトアップや地域密着型イベントに補助金を支出するほか、多様なメディアを利用して糖尿病啓発を行っています。

### ★IDFとは

International Diabetes Federation (IDF／国際糖尿病連合)は、165カ国・地域から230以上の糖尿病関連団体が参加する組織で、1950年から世界の糖尿病関連団体をリードし、増加する糖尿病患者とその予備群を支援する活動を展開しています。2006年の糖尿病に関する国連決議採択では、世界保健機関（WHO）とともに主導的な役割を果たしました。日本糖尿病学会・日本糖尿病協会もIDFの正会員です。

### ★IDF Diabetes Atlasとは

IDFが発行するDiabetes Atlasは、2000年に初版発行後、2年に一度、IDFと世界の専門家が協力し、糖尿病患者数、発症率、死亡率、世界・地域・国レベルの医療費支出などのデータを収録しています。

\*\*\*\*\*

### ◇国内ブルーライトアップ、イベントに関するお問い合わせ先◇

公益社団法人日本糖尿病協会 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725

E-mail : office@nittokyo.or.jp